

午後 I 試験

問 1

問 1 では、次世代型コンタクトセンターサービスへの移行プロジェクトを題材に、移行計画の立案、新機能の導入時のリスクへの対応について出題した。全体として正答率は高く、おおむね理解されていた。

設問 2(2)は、正答率が低かった。M 社専用かつ終日利用可能という要件以外に、M 社プロジェクトの移行条件を実現するために、機能面、構成面での訓練環境に求められる要件をプロジェクトマネージャ (PM) の視点で解答してほしかった。

設問 3(1)は、正答率が低かった。このプロジェクトでは標準サービスへの移行が最優先であることから、検証作業は標準サービスの訓練に影響を及ぼさずに実施する必要があることを読み取ってほしかった。

問 2

問 2 では、IoT を活用した工事管理システムの構築プロジェクトの計画作成について出題した。全体として正答率は高く、おおむね理解されていた。

設問 1 は、“納期に遅れると損害賠償金を請求されるから” など、スコープの定義のプロセスの範囲を逸脱した解答が散見された。WBS を作成する際の基本的なルールである“100 パーセントルール”を理解して、正しく解答してほしかった。

設問 2(2)は、正答率が低かった。“X 国工事経験者”という誤った解答が多く、X 国新工事の PMO と混同している受験者も多かった。G 社プロジェクトの進捗状況を確認するための PMO の要員を選定するに当たって、WBS から確認できる G 社プロジェクトの特性を考慮した上で、各要素の内容を理解し、進捗状況を把握できる要員が求められる点を、十分に理解してほしかった。

問 3

問 3 では、プロジェクトの定量的なマネジメントについて出題した。全体として正答率は高く、おおむね理解されていた。

設問 1 は、正答率が高かった。品質にも課題はあるものの組織の価値観の効用が期待できるので、経営課題であるスケジュールの改善を優先して取り組む、という状況について、おおむね理解されていた。

設問 2(2)は、正答率が高かった。成果物の作成過程における早期レビューの重要性、スケジュールと品質の両面への効果について、おおむね理解されていた。

設問 3(2)は、正答率が高かった。進捗会議の場を有効活用するために会議前に行うべきこと、会議で行うべきことがよく理解されていた。